

HAT CROSS

神戸赤十字病院広報誌
2009 vol.20

神戸赤十字病院における 新型インフルエンザ対策について

読者の皆さんがこの記事をお読みになる頃には状況は大きく異なっているだろうと思われませんが、感染対策委員として慌ただしくすぎたこの数週間を振り返ってこの原稿を執筆しています。

今年4月25日に「メキシコで豚インフルエンザにより20人が死亡」と発表されたN1H1新型インフルエンザは瞬く間に世界43カ国に広がり、日本では厳戒な検疫体制を潜り抜け、5月16日、こともあろうかこ神戸の街から初の国内発生が報告されました。この新型インフルエンザに対する当院の対応について、5月29日現在の状況を報告いたします。

4月26日、前日の報道を受け、事前に準備していた新型インフルエンザ対策マニュアルに基づき、守殿院長を本部長とするインフルエンザ対策本部を立ち上げました。連休中の国内上陸に備えた会議を開き、渡航歴のある発熱患者の院内立ち入りを制限するなどの対策を立てました。以後、一例のみ渡航歴のない患者からA型陽性反応はでたものの、特別な混乱はありませんでした。

しかし、5月16日に市内の高校生から新型インフルエンザ発生が報じられ事態は一変しました。当院は感染症指定病院ではないものの、発生地域の中核病院として一般救急患者の受け入れ増加も含めて特別な対応に迫られました。緊急に対策委員会を開き、発熱患者は原則、発熱相談センターに連絡をしていたとき当院への診察は避けていただくこととしたものの、直接来院される患者さまについては



別室で対応し、インフルエンザ検査を行う方針を立てました。この日より休日返上で連日対策会議を開催し、5月17日には病院玄関に発熱患者待ち合い用のテントを設置し、災害医療センターのドクターカー車庫を臨時診察室として使用させていただくことを決定しました。玄関入り口で看護師、事務職員で来院者の来院動機を確認し、感染の疑われる患者さまは病院建物の外で検査させていただきました。診察は当初、呼吸器内科医師が専任で対応しましたが、後に救急担当医が交代で担当しました。

合計153人に検査を行いました。受診のピークは19、20、21の3日間で、最も多かった日は19日の31名でした。新型およびA型の陽性反応の出た患者さまはおられませんでしたが、高齢の濃厚接触者が発熱のため救急車で搬入され、インフルエンザ検査を救急車内で行い、結果が出るまで車内で待機してもらったなど対応に苦慮した場面もありました。

以後は神戸市内の発生患者の減少とともに、当院受診患者も減少して外来の対応は落ち着きを取り戻しています。

新型インフルエンザは弱毒性と考えられ、市内での発生もほぼ収束に向かったことから、各医療施設の対応も季節性インフルエンザに近い形で緩和されていくものと思われますが、おそらく秋以降に訪れるであろう第2波に備え、油断することなく新たな準備を整えるべきと考えています。

感染対策委員会

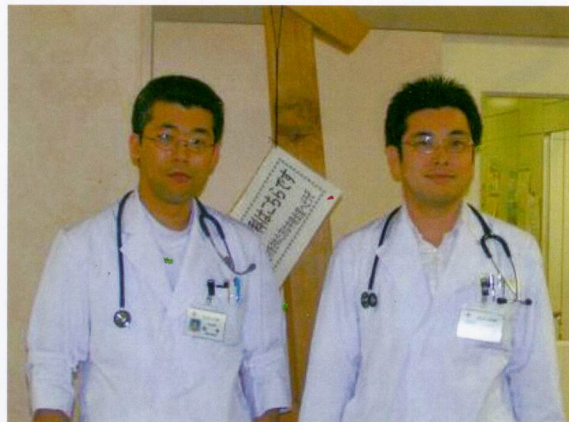
ICTチーム委員長 松井 隆



『ひとりひとりに納得のいく

治療を提供します』

小児科部長 住永 亮



住永部長、藤田副部長

はじめまして、小児科の住永です。神戸赤十字病院小児科は開院6年目を迎え昨春秋に小児科医師スタッフが一新しました。私はアレルギー外来・内分泌外来を担当しています。アレルギー疾患ではアトピー性皮膚炎、気管支喘息、食物アレルギーなどの診察を行っています。最新のエビデンスや学会ガイドラインをふまえてお一人お一人に納得のいくまで御説明し診療させていただくように心がけています。また食物アレルギーのお子様も多く、正確に食物除去の必要性を診断し、また食事制限を解除していくために食物負荷試験も予約制で行っています。内分泌疾患では低身長、甲状腺疾患、糖尿病、肥満症、思春期早発症、夜尿症などの診療を行っています。

副部長の藤田は腎臓外来を担当しています。神戸市では毎年春に学校検尿が行われます。学校検尿で発見された血尿・蛋白尿は慢性腎臓病の初期症状の可能性があり、早期発見・早期治療が原則です。腎臓外来では集団学校検尿で異常を認めた児童に対する2次検診を行っています。

ところで神戸赤十字病院小児科では他院からの紹介や専門の疾患しか診療していないと思いませんか？（注*）午前中は主に一般外来を行っています。当院小児科の特徴としては感染症に対する迅速検査から、最新のCT・MRIによる検査、入院治療に至るまで、総合病院ならではの一貫した診断・治療が可能となっています。「軽いかぜなのに総合病院に行っても大丈夫かしら？」なんていう心配は全くありませんので、お子様の健康で気になることがございましたら、街のホームドクターとしてお気軽に神戸赤十字病院小児科をご利用下さい。

その他、予防接種や乳児検診の予約も随時受け付けています。詳しい診療内容・診察時間については、神戸赤十字病院小児科のホームページを一度ご覧下さい。

さい。

(http://www.kobe.jrc.or.jp/kakuka_kakubu/s-syunika/index.html)

（注*）当院では通常「紹介状」をお持ちでない場合、初診時のみ特定療養費として2,100円がかかりますが、神戸市の乳幼児医療受給者証をお持ちの患者さまは、特定療養費の支払いも免除されます。

ちょっと言

ヒブワクチンについての豆知識

最近マスコミなどでの報道で、当院でもヒブワクチンに関する問い合わせが多くなってきました。ヒブ（ヘルペス・インフルエンザ菌b型）とは乳幼児の細菌性髄膜炎の原因菌です。日本では年間600人の子供が重症のヒブ感染症にかかり、そのうち5〜10%が死亡し、発達・知能・運動障害など脳の後遺症が30%くらいに残る恐ろしい病気です。またのどの奥に起こる急性喉頭蓋炎でも大変重症になり、死亡することもある場合があります。欧米では10年以上前からヒブワクチンが全員に接種されるようになり、ヒブによる髄膜炎が1%に減少しました。このように非常に有効なワクチンでありながら、日本ではこれまで認可の関係でヒブワクチンの接種が出来ませんでした。昨年12月よりようやく本邦でのヒブワクチン接種が可能となりました。対象は生後2ヶ月以上5歳未満の小児です。三種混合ワクチンとの同時接種も可能となりますので、詳しくは当院小児科スタッフまで御相談下さい。



『肺がんについて』



回か質問も飛び出し、充実した講演であったと思います。また、講演途中で何

肺がんは悪性腫瘍の中でも最も死亡者数の多い疾患です。今回はその肺がんがテーマであり、外来患者さまから入院患者さままで多数の参加を頂きました。

講演内容は肺がんの疫学から分類・診断法・治療法、そしてその副事象に至るまで内容が豊富でなかなか一般の方にすべて理解していただけるのは困難かとも思われましたが、最後まで参加いただいた皆様は、熱心に耳を傾けていました。また、講演途中で何

呼吸器内科部長 杉本 啓介



お薬 四 方 山 話

15

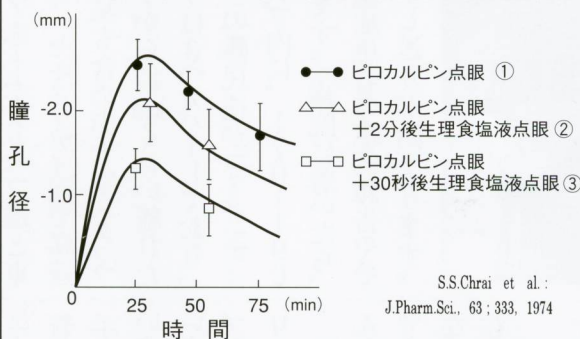
『点眼薬の使い方』

薬剤部 大岩 千晶

患者さまによっては、何種類もの点眼薬を処方され、点眼薬の使い方についての質問をうけることがあります。点眼薬の効果を最大限に発揮させるためには、次のことを守ってください。

- ①点眼間隔：2種類以上の点眼剤を使用する場合は、5分程度あけてください。間隔については、下図に示します。ピロカルピン単独および生理食塩液併用後の瞳孔変化により説明されています。ピロカルピン単独①点眼時の瞳孔径を100%としますと、ピロカルピン点眼後30秒後に生理食塩液を点眼した場合③は、ピロカルピン単独①に比べ瞳孔径が50%も減少します。しかし2分後に生理食塩液を点眼した場合②では約70%の作用が現れます。このことから点眼間隔が大事になります。
- ②点眼順序：使用する前によく振る点眼薬は水に溶けにくく、吸収されにくいので、後から点眼するのがよいでしょう。
- ③点眼滴数：目薬は点眼後、結膜囊(30μL)に入りますが、1滴は30〜50μLのため、1滴で十分な効果を得られますので何滴も点眼する必要はありません。
- ④特に医師から指示がでている場合はそれに従ってください。

ピロカルピン単独および生理食塩液併用後の瞳孔変化



栄養課 だより

18

今回は、誰もが利用する「コンビニ」です。毎朝、おはようと声をかけながら片手にブランドバッグ、片手にコンビニ袋。中身は今日の朝ご飯、昼ご飯、朝昼の両方と様々です。1回の食事にかかる金額は、1コイン(500円以下)の人が多いようです。

脂肪分が多く、野菜不足ですから昼、夕食をきっちり食べていただければ問題はありません。外食が多い場合は、サラダを1品追加もしくは、缶コーヒーより野菜ジュース(牛乳、豆乳)を選択するとバランスが良くなります。※弁当とカップラーメンの選択は、肥満の原因にもなりま

商品名	北海道牛乳 クリームパン	大きな男爵 いもコロケ	おかず たっぷり弁当	助六寿司	野菜ジュース
エネルギー kcal	347	624	998	545	80~100
タンパク質 g	8.7	11.4	44.0	20.3	1.0~2.0
脂質 g	12.2	35.9	19.6	13.3	0
炭水化物 g	50.6	63.9	155.2	86.2	15~20
塩分 g	0.8	2.8	5.1	4.8	0.1~0.5
金額 (当院調べ)	158円	140円	399円	395円	95~120円

※平均的な栄養素の量

・600~800kcal/食 ・蛋白20~30g/食 ・脂質15~25g/食

基本方針

1. 患者さまを中心として、人権と意思を尊重し、安心と満足が得られる医療を提供いたします。
2. 地域医療機関との連携を保ち、患者さまに一貫した医療を提供いたします。
3. 救急医療、災害救護活動、国際救援活動を行います。
4. 内外の医療従事者の育成に努めます。
5. わたしたちは、日々研修・研鑽し、明るく活力のある職場づくりに努めます。

神戸赤十字病院「患者の権利に関する宣言」

神戸赤十字病院は、医療の中心は患者さまであり、医療行為が患者さまと医療関係者との信頼関係の上に成り立つものであることを深く認識し、ここに、「患者の権利に関する宣言」を制定いたします。

当院の全職員は、この「患者の権利に関する宣言」を守り、患者さまの医療に対する主体的な参加を支援してまいります。

1. 一人の人間として、その人格・価値観などを尊重され、医療提供者との相互の協力関係のもとで医療を受ける権利があります。
2. だれでも、どのような病気にかかった場合でも、良質な医療を公平に受ける権利があります。
3. 病氣、検査、治療、見通しなどについて、わかりやすい言葉や方法で、納得できるまで十分な説明と情報を受ける権利があります。
4. 十分な説明と情報提供を受け、納得したうえで、検査や治療方法などを自分の意思で選ぶ権利があります。
5. 自分が受けている診断や治療について、他の医師の意見を求める権利があります。（セカンドオピニオン）
6. 自分が受けている医療を知るために、診療記録の開示を求める権利があります。
7. 研究途上にある医療に関して、目的や危険性などについて十分な情報提供を受けたいと、それを受けるかどうか決める権利と、何らの不利益を受けることなくいつでも中止を求める権利があります。
8. 診療の過程で得られた個人情報の秘密が守られ、病院内での私的な生活を可能な限り他人にさらされず、乱されない権利があります。

知野見看護師をタンザニア難民支援に派遣！

平成21年4月4日から平成22年3月14日まで約1年間アフリカ大陸のタンザニア連合共和国へ当院の知野見優紀子（ちの みゆき）看護師を派遣しました。このたび知野見看護師より現地活動報告がありましたので報告します。

こちらに来て、1ヶ月が過ぎました。難民キャンプは、昼夜の気温差が激しく、朝は本当に寒く、長袖のフリースを着ています。ただ、昼間になると気温が上がり、太陽が照らす中で歩いていると、暑くてたまらないほどです。朝は、7時過ぎに他のタンザニア赤十字スタッフ達と車に乗り込み、キャンプへ向かいます。セキュリティ面で私達の生活するリビングコンパウンド（私も含め赤十字スタッフが住んでいるところ）は、キャンプから17kmくらい離れたところにあります。難民キャンプは3つカバーしており、現在はそれぞれ約3〜4万人ほどの難民達がコミュニティを作って生活しています。各キャンプ内に、170〜190床程度の病院をそれぞれ持っています。病院に着いたら、各病棟の入院患者・退院患者・重症患者の症例報告やそのほか、問題があったことなど申し送りが始まります。

ここでの主言語はスワヒリ語で、申し送り中で何が主に話合われたのかをDRに聞いています。コミュニケーションという点で、難しい面を感じながら毎晩2時間ずつ、現地の先生にスワヒリ語の個人レッスンを受ける予定にしています。

私の今回の任務内容は事業管理です。特に事業



の予算編成や、事業の進捗状況を毎月本社へ報告や予算の中間報告、会計報告の査定をしています。会計用語や、会計監査など不明なことも多く、スペイン赤十字の派遣要員やタンザニア赤十字のスタッフと一緒にしています。

一番問題なのは薬剤に関する事で、オーダーしている薬が現地に届くのに時間がかかり、どこかで搾取されているという問題、病棟での薬の管理もずさんな事等色々な問題が絡み合っており、薬が不足しています。産科病棟にガゼが1枚もない日がある事やマリアアの必須薬品であるキニーネが1本も病院にないという事もあります。薬剤を管理する者も手一杯で、請求がきちんとしなかったり、手書き伝票のミスや紛失等、基本的な整理整頓ができていません。詳しく原因を探っていく必要があるかと思っています。来週から、スペイン赤十字の要員達と、各キャンプを回り統一したフォームを使うように再度説明とモニタリングをする予定です。

難民キャンプの病院では、放射線などの設備はありませんが、産科の手術もあります。（多くは帝王切開のようですが）マリアアやエイズの治療や、検査、カウンセリングなど行っている点は、日本の病院と大きく異なる場所かもしれません。

また、非常に通信状態が悪く、停電は日常茶飯事です。リビングコンパウンドでは、ジェネレーターを使って電気を起こしているので、使用時間も決まっており、何回も水をケトル（やかん）で沸かして、温水を作るといった状態です。

現地のスタッフも温かく迎えて下さり、あらゆる面でサポートしてもらいながら、色々な問題がみついても、これから少しずつそれらを紐解いていこうと思います。

（平成21年4月18日 知野見優紀子）